

遊びの先生として地域の方が活躍

9月1日(土)、鶴田小学校(森山和康校長)で「第21回三世代ふれあい祭り」が開催されました。

開会式では、今回で最後となる6年生と新しく結成された5年生による「よさこいソーラン」が披露され、その後各教室では「あやこ」「ズグリ」「ビダ」「割りばしてっぼう」「むがしこ」などの昔の遊びの教室が開かれ、町内のお年寄りや地域の方が熱心に児童たちに教えていました。

児童たちは夢中になって遊び、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に楽しいひと時を過ごしていました。



・6年生最後のよさこいソーランを披露



・割りばしてっぼう



・何度やってもできなかったけん玉がなんと撮影中に成功!



8/21 中央保育所の園児たちが町民農園に秋大根を穫るまぐ。

8/18 富士見湖の特設会場で開かれた妙宝崎アームレスリング大会

8/15 鶴遊館で行われた鶴田町戦没者追悼式



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(TEL22-2111 内線263)

実際の職場を体験する鶴中生たち

8月29日(水)、30日(木)の2日間にわたり、鶴田中学校(野呂登志道校長)1学年137人が、町内のさまざまな職場に行き、実際に労働を体験する「職場体験学習」が行われました。

初日の朝、指導を担当する職場の方からのお話が終わるとさっそく職場での「仕事」が始まりました。町内の商店や飲食店、スーパーや役場、消防署、病院など職種によって仕事の内容は違いましたが、それぞれの職場で緊張しつつも生徒たちは一生懸命仕事に取り組んでいました。

体験した2日間で、生徒の皆さんは「労働」の大変さを知り、それと同時に仕事へのやりがいも感じていたようです。少しだけ大人に近づけた体験学習でした。



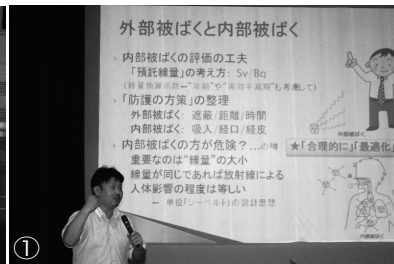
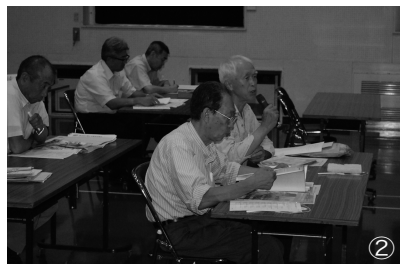
・消防署での1日 ①素早く消防服を着て走行する訓練 ②訓練前は整列と点呼 ③人工呼吸の訓練 ④救急法胸部圧迫の訓練

放射線を知る・意見交換会を開催

8月27日(月)農村環境改善センター「豊明館」で、「くらし」と「放射線」と「原子力」をテーマに青森県主催「原子力に関する意見交換会」が開催され、町内から一般町民ら70人の方が参加して原子力についての意見交換会が行われました。

意見交換会の前半では、東京大学 環境安全本部 准教授 飯本武志氏による「放射線の基礎」と題した解説が行われ、放射線から受ける人や植物への影響を分かりやすく説明してくださいました。

意見交換会では、原発事故により当町にどの程度放射能の影響があるのかなどの質問がされ、各専門家からいねいに説明がされていました。意見交換終了後は「暮らしに役立つ放射能」と題して放射線によって加工された素材の実験が行われ、さまざまな場所で放射線が役立っていることを学びました。



①人体への影響を解説する飯本氏 ②館内には放射線で加工された製品を展示
③専門家と意見交換をする参加者 ④放射線で加工された素材を使った実験の様子

キャラバン隊が交通安全教室

8月28日(火)、農村環境改善センター「豊明館」に、青森県交通安全母の会連合会が主催する「第2回みんなで進めよう交通安全青森県キャラバン隊」が来町し、知事から町への交通安全メッセージが伝達されました。

伝達終了後、同会場駐車場で県警察本部による交通安全指導が行われ、伝達に参加した年長園児と児童80人が「運転・歩行能力診断機による診断」や「シートベルトコンビンサーによる衝突衝撃テスト」、「交通機動隊による白バイ試乗」を体験しました。

衝突衝撃テストを受けた児童たちは「ぶつかる瞬間怖かった。すごい衝撃だった。」と感想を述べ、交通事故の怖さを身をもって体験した教室になりました。



①青森県交通安全母の会連合会会長の間宮氏 ②衝突テストで悲鳴を上げる児童たち
③ヘルメットをかぶり気分は白バイ隊 ④光るボタンを押していくゲーム機のような診断機

ねぶた団体「つ組」結成

今年7月、ねぶたばやしやねぶたづくりなどの正しいねぶた文化を町の子どもたちに継承していきたいと、小野貢誠さん(田中町)が中心になり、町内でねぶたを愛する有志たちが集まり、ねぶた団体「つ組」が結成されました。

つ組の呼びかけに集った町の子どもたちは、つるたまつりのねぶた運行の日(8/18)まで、連日役場車庫に集まり、運行に使われるとうろうづくりやおはやしの練習に励んでいました。町の子どもたちもねぶたが大好きなんですね。



①「つ組」と書かれたお揃いのTシャツを着て参加する児童
②つるたまつりの日までの練習が行われる
③つ組を主宰し子どもたちにねぶたばやしを指導する小野貢誠さん